

2023年度 医療経営管理学科 専門教育科目 履修系統図（カリキュラムツリー）

専門教育科目	科目区分	資格必修科目
基	専門基礎	管 診療情報管理士
基	専門基礎L群	教 救急救命士
A	専門基幹科目A	運 健康運動実践指導者
B	専門基幹科目B	灰色の科目は学科必修科目
C	専門基幹科目C	
関	関連科目	

1年次

2年次

3・4年次

人間と社会の理解
医療・災害における
課題発見・解決力の養成

基	医療概論	管	教
関	心理学概論		

関	健康・医療心理学		
---	----------	--	--

関	災害概論		
---	------	--	--

関	国際協力論		
---	-------	--	--

健康・医学の基礎知識の習得
健康管理能力の獲得

基	人体構造・機能論	管	教
基	身体活動と健康	運	

基	医学概論	教	
基	医学・医療用語	管	

A	成人保健	運	
A	運動障害と予防・救急処置	運	

B	ヘルスマネジメント論		
---	------------	--	--

関	生化学・栄養代謝学	教	
---	-----------	---	--

関	生理学	教	
関	身体運動科学	運	

関	公衆衛生学	教	
関	身体運動科学演習	運	
関	救急処置法	教	

臨床医学・薬学の知識の習得

基	臨床医学総論	管	教
---	--------	---	---

A	臨床医学各論Ⅰ	管	教
A	臨床医学各論Ⅱ	管	教
A	臨床医学各論Ⅲ	管	教
A	臨床医学各論Ⅳ	管	教
A	臨床医学各論Ⅴ	管	教
A	臨床医学各論Ⅵ	管	教
A	臨床医学各論Ⅶ	管	教
A	臨床医学各論Ⅷ	管	教

基	救急医学総論	教	
A	病理学	教	
A	精神医学と精神医療Ⅰ・Ⅱ	教	
A	薬理学	教	
A	小児疾病治療論	教	
A	放射線医学	教	

A	医薬品学		
---	------	--	--

情報を活用するための
知識・技能の習得

基	情報処理論Ⅰ		
基	情報処理論Ⅱ		
基	情報処理基礎実習Ⅰ		
基	情報処理基礎実習Ⅱ		
C	ICT入門実習		
C	ICT活用実習		
C	情報処理応用実習Ⅰ		
C	情報処理応用実習Ⅱ		
C	情報倫理		

基	保健医療情報学	管	
A	医療統計Ⅰ	管	

A	e-ヘルスクア論		
A	医療統計Ⅱ	管	

A	国際統計分類Ⅰ	管	
A	国際統計分類Ⅱ	管	

C	ソーシャルメディア論		
C	インフォメーションデザイン論		

C	データベース論		
---	---------	--	--

サービスを提供する側の
理解・技能の獲得

基	簿記		
---	----	--	--

基	経営管理論		
A	健康運動指導論	運	
B	会計学		
B	コミュニケーション基礎演習	管	

基	医療管理総論	管	
B	診療情報管理論Ⅰ	管	
関	ドクターズクラーク実践		

B	医療管理各論Ⅰ	管	
B	医療管理各論Ⅱ	管	
B	診療情報管理論Ⅱ	管	

B	労働法Ⅰ（労働組合法を含む）		
---	----------------	--	--

B	労働法Ⅱ（労働組合法を含む）		
---	----------------	--	--

B	社会保険論		
---	-------	--	--

理論と実践の融合

B	シミュレーション実習Ⅰ	教	
---	-------------	---	--

B	シミュレーション実習Ⅱ	教	
B	医療機関実習事前指導	管	

B	医療機関実習	管	
---	--------	---	--

B	シミュレーション実習Ⅲ	教	
B	シミュレーション実習Ⅳ	教	
B	病院実習Ⅰ	教	
B	病院実習Ⅱ	教	
B	救急車搭乗実習	教	

B	健康運動指導実習	運	
---	----------	---	--

A	健康運動の理論と実践Ⅰ	運	
A	健康運動の理論と実践Ⅱ	運	
A	健康運動の理論と実践Ⅲ	運	
A	健康運動の理論と実践Ⅳ	運	

学士力の基礎形成

U	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）		
---	-----------------	--	--

U	リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）		
U	リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）		
L	卒業研究		

学位授与の方針

(1) 医療専門職としての使命を全うできる資質・能力

医療専門職としての使命を全うできる態度・知識・技能が身に付いており、医療事務や救急救命士などの資格認定試験に合格できるレベルを有する。

(2) 職業人としての資質・能力

サービスを受ける側から提供する側への意識の切り換えができ、他者の喜びから自らの喜びや価値を見出すことができる。

(3) 生涯学習への意欲

時代の変化や社会の多様性に対して常に関心を持ち続け、生涯を通して主体的に学習し、自らを高めるための意欲と成長の道筋を示すことができる。